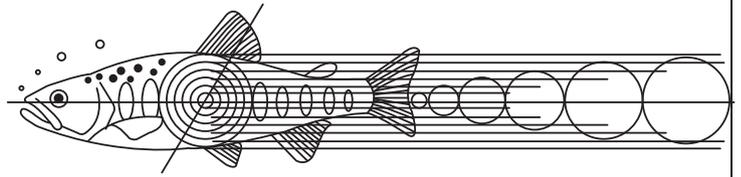


# news

長良川市民学習会ニュース



長良川河口堰の開門調査を実現しよう

No.22

2016年7月1日

- |                          |                              |
|--------------------------|------------------------------|
| 鮎の絵 (岡久米子) .....表紙       | ③伊勢湾の流れと答志島の漂着ゴミ ..... P 9   |
| はじめに/活動報告 ..... P 2      | ④貝屋の欲目から診た伊勢湾の価値と再生の可能性・P12  |
| (特集) 伊勢湾流域圏の再生           | 定例水質調査を続けています ..... P14      |
| ①伊勢湾の環境の今 ..... P 5      | 結いの舟体験記/事務局より ..... P15      |
| ②コンビニの街にアカミガメを呼びもどそう・P 9 | 校歌に歌われた長良川/ご参加ください ..... P16 |

長良川を放射能で汚してはならない！私たちは、原発の再稼働に反対します。

# 長良川に徳山ダムの水を流されるのは人ごとか？！

長良川市民学習会代表 粕谷志郎

いよいよ、徳山ダムの水を長良川、木曽川に流す木曽川水系連絡導水路の事業が動き始めました。これを受けて、今年1月に岐阜市、5月に岐阜県に導水路によって長良川の環境が悪化することを関係する会合で訴えるよう要請を行いました。市、県ともに、導水路は必要と取れる発言を繰り返しています。市は、平成6年の渇水で水道水源の水位が低下した、鶺鴒の観覧船を通すために川底を掘ったなどと主張し、県は東濃地方の渇水対策になると主張しています。百年に一度の大渇水といわれた平成6年の渇水ですが、長良川は悠々と流れ、実害は一切報告されていません。渇水で地下水位が下がるのは当たり前です。実害と無縁のことをあげつらっているようです。東濃地方も断水は一度もありませんでした。そもそも、導水路は治水目的で県も負担金を出しています。東濃地方のはるか下流で導水路の水を木曽川に流して”利用”するなど道理もありません。

冷たく有機物の多い徳山ダムの水が鶺鴒い場のすぐ上流の古津から流されます。渇水時に流すということは、3～4割がダムの水という状況になります。冷たい水は川底を流れ、層が形成されます。酸素は下の層には届きません。川底一面がヘドロと化します。本流にダムの無いがゆえの清流です。ここにダムの水を流すことは暴挙です。市も県も口をそろえて「環境に関しては国にお願いしてある。」を繰り返すだけ。これでは長良川の環境悪化は他人事です。清流長良川を売りにする岐阜市、岐阜県なら、「ダムの水は要らない。」とキッパリ断るべきです。長良川河口堰を開門して、天然遡上鮎の回復を図るべきです。



2016.1.26 中日新聞

## 活動報告

長良川市民学習会事務局長 武藤 仁

### 1/31 伊勢湾流域圏の再生めざして

昨年7月に大きく展開させた「よみがえれ長良川」の取り組みをさらに伊勢湾、とりわけ三重県にも広げようと東海三県の市民団体が伊勢湾流域圏再生シンポジウムを計画しました。1月31日(日)四日市のじばさん三重ホールにおいてウミガメ保存会など地元の市民団体や自治体関係者の積極的な参加で大きな取り組みにすることができました。会場には130名の市民が詰めかけ満員でした。翌日その様子がNHKでも報道され話題を広げました。

シンポジウムでは、伊勢湾の環境をめぐる状況を歴史、行政・施策、流れの分析、流域河川とのかかわり、再生の取り組みなど様々な角度から討論されました。その講演と報告の一部を本ニュース(P5～P11)に掲載しましたのでご覧ください。

東海三県の市民団体が協力してこのようなテーマで取り組むことは画期的なことです。初めて顔合わせする団体グループが多く、シンポジウム後の交流会も夜遅くまで続き懇親を深めました。シンポジウム実行委員会はこれを機に毎年1回この時期に伊勢湾流域の団体が共同して取り組みを持つことを確認しました。



## 徳山ダム導水路（木曾川水系連絡導水路）事業の「継続」は許さない

前号のニュース（12/18）でもお知らせしましたように、凍結・検証中の導水路事業をめぐる状況は緊迫しています。私たちは、「導水路はいらない！愛知の会」の皆さんと相談し導水路事業の「関係地方公共団体からなる検討の場」で、事業継続を容認する立場を示さないよう関係自治体に働きかける取り組みを確認しました。

岐阜市に対しては1月25日「検討の場で事業に期待する発言をしないこと」「公開討論会の開催」を要請しましたが、対応した基盤整備部長は国・事業者任せで市の独自の立場は明らかにしませんでした。これを受け私たちは市議会各派に申し入れと意見交流を行いながら3月市議会に「木曾川水系連絡導水路事業の「継続」を容認しないことを求める請願」を提出しました。

3月25日（金）岐阜市議会において私たちが提出した「請願」は不採択となりました。請願採択に賛成したのは38名の議員中、市民クラブ（民主）全員5名、無所属クラブ全員4名、共産党全員3名、以上12名でした。採択されなかったのは残念でしたが、紹介議委員にならなかったものの採択では市民クラブが全員賛成に回ってくれたことは成果でした。

全ての議論を傍聴してきましたが、自民党の中でも「推進」の声は出ませんでした。「国の検証を注視する」とどまりました。公明党も「市民の環境不安の声は国に届けてほしい」とどまっています。

6年前の市長選挙の私たちが行った候補者アンケートで細江市長は「影響を調査し検討」（2010/1/28 中日新聞）と答えていましたが、今回の市議会では「予期せぬ気候変動に対応できるように」と的外れの事業に期待する答弁を行い市民の長良川の環境悪化の危惧を無視する姿勢を示しました。加えて心配なのは、このような議会議論に対し市政記者クラブが全く関心を示さなかったことです。

岐阜県に対しては、5月27日「長良川河口堰開門調査の検討」、「内ヶ谷ダム建設事業の再検討」と併せて要請を行いました。対応した三戸県土整備部次長兼河川課長は「導水路事業は東濃渇水に役立つ」とのこれまでの県の主張を繰り返しました。しかし、平成6年渇水で断水実態はあったのか、既設水源施設で十分足りており稼働率が最大でも6割程度、過大な施設がむしろ県民に負担になっている等の私たちの訴えには具体的な返答はできませんでした。また、長良川の環境悪化へ県民の危惧については「国・事業者に伝える」とどまり、積極的に県として独自に対応する姿勢は示しませんでした。



2016. 5. 28 岐阜新聞

## 5/31 最高裁が「導水路裁判」 上告棄却決定

5月31日最高裁判所は導水路裁判の上告棄却決定をしました。

決定を受け日、在間弁護団長は、次のようなメールを発信されました。

……………上告理由の内容は、理由不備ではなく、事実誤認又は単なる法令違反の主張であって、上告許容事由に該当しないというものです。高裁判決は上告人（私たち）の主張について判決に記載せず判断しなかった「孔あき」判決だったのですが、このような判決でも許され、そのことは「孔あき」つまり判断をしなかった理由不備ではなく、その指摘は判断における事実誤認の主張というものです。「裁判所の判決はこの程度でよいよ」と言って、自ら裁判所の「権威」を貶めているのです。……………

「導水路はいらない！愛知の会」は上告棄却決定を受け下記の内容で8月11日に報告集会の開催を決めました。また「未だ事業に正式に参加表明していない名古屋市が事業撤退に向けた行動を促すよう」、昨年末から市議会全政党へ要請を行ってきましたが、7月には名古屋市上下水道局に対し意見交換する場を求めています。

### 「やっぱり止めよう！徳山ダム導水路」集会

- \*と き 8月11日(木) 14時(13時30分開場)～
- \*ところ 中生涯学習センター・視聴覚室  
(地下鉄上前津駅下車 ⑥番出口から徒歩7分)
- \*第一部(最高裁上告「棄却」不当決定 報告集会&2016総会)
  - ・活動報告、会計報告、今後の方針提案
  - ・ミニ講演・「最高裁は高裁の孔あき判決を容認」  
講 師……在間 正史弁護士
- \*第二部(講演会)……「長良川河口堰開門委員会の経過報告と  
徳山ダム導水路問題」  
講 師 伊藤 達也法政大学教授

### 河口堰開門をめざす韓国の動きと連帯

河口堰開門の動きが韓国で進んでいます。

去る3月、河口堰の開門をめざす釜山広域市役所より長良川市民学習会に河口堰問題の照会と協力の依頼がありました。

ナクトンガン(洛東江)が流れる韓国第二の都市プサン広域市(人口341万人)にはナクトンガン河口堰があります。1987年に完成したもので延長2,230mです。韓国の河川は日本の河川と比べ広大です。ナクトンガンの延長は525kmで、河口には雄大な湿地が広がり世界的に有名な渡り鳥の飛来地となっています。またナクトンガンはプサン市民の水道水源でもあります。



ナクトンガン河口堰 2013年 撮影 武藤

しかし、河口堰によって流れが止められたナクトンガンでは水質悪化が進み水道水源として深刻な状況となっています。また、河口堰が引き起こす湿地環境の変化は渡り鳥の激減をはじめ生態系全体に甚大な影響を及ぼしています。こうしたなかプサン市では河川環境改善をめざす研究が進められてきました。そして昨年プサン市長はナクトンガン河口堰を「2025年までに全面開放することを目標に2017年から一部開放」を発表しました。河口堰開放には農民の側から「塩害」を危惧する反対もあり、プサン市は市役所内に河口堰開放に向けた担当部署を設置するとともに、学者研究者、環境市民団体、農民などで構成する委員会を設け調査・検討を進めています。国に対しても河口堰開放に向けたさらなる研究を求めています。

こうした中、3月31日に開催された第11回愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会において傍聴席から、長良川連続講座へのプサンからの講師招聘を提案しました。これを受け委員会は、第3回長良川連続講座にプサン広域市気候環境局長を講師として招き「なぜ開門調査をめざすのか：韓国の事例と伝統漁法を学ぶ」を7月31日(日) pm1:30～4:30 ウィンク愛知(名古屋駅徒歩5分)にて開催することを決めました(詳細は同封のチラシをご覧ください)。貴重な話が聞けるとお思いますので参加申し込みしてください。

(連絡先) 愛知県土地水資源課 052-954-6121 F A X 052-961-3293 E-mail [tochimizu@pref.aichi.lg.jp](mailto:tochimizu@pref.aichi.lg.jp)

また、よみがえれ長良川実行委員会では、プサンの取り組みを学びに行く「韓国ナクトンガン河口堰視察と交流の旅」10月8日(土)～11日(火)を計画し参加者を募集しています。韓国の市民団体との交流も深めたいと考えています。参加費は45,000円(航空料金除く)程度です。問い合わせ先：090-1284-1298 武藤

長良川市民学習会と韓国の水・ダム問題の市民団体の交流は2010年生物多様性COP10以来続いています。先月(6/20)も訪日団と「日韓合同河口堰環境観察と交流」を行いました。

来日したのは、韓国環境運動連合のソウルの活動家3名とソウル市役所職員2名、そして2年前来岐されたパク先生、コーディネータの田中さん、以上7名の皆さんでした。ソウルを流れるハンガン(漢江)では河口にある「潜り堰」の影響でアオコの発生など環境悪化が進んでいるようで、アオコの採取・分析方法を学びに日本を訪れ、その帰り途中、長良川河口堰の環境観察、長良川関係の市民団体との交流のスケジュールで来られました。

夜は、岐阜駅近くで交流をしました。日本側は粕谷代表以下5名が参加し、熱い議論をしました。「どちらの国が先に河口堰開門実現させるか勝負しよう！」と挑戦を受け、夜遅くまで議論は止まりませんでした。「よみがえれ長良川」報告書の韓国語訳の話も持ち上がりました。



## 生物多様性COP10から5年・長良川河口堰運用20年 「伊勢湾流域圏の再生シンポジウム」報告

2016年1月31日に四日市市の三重じばさんホールにおいて「伊勢湾流域圏の再生シンポジウム」を開催し、三重、愛知、岐阜の3県から130名が参加しました。このシンポジウムは、生物多様性COP10から5年、長良川河口堰運用20年となるこの年に、よみがえれ長良川実行委員会など伊勢湾流域で活動する5市民団体が、流域を生命流域としてとらえ「伊勢湾流域圏の再生」について考えようと企画しました。高山進さん（伊勢三河湾流域ネットワーク代表）の基調報告と石原義剛さんの講演に続き、千葉賢さん（四日市大学）、森一知さん（四日市ウミガメ保存会代表）、向井貴彦さん（岐阜大学）の3名と石原、高山さんによるシンポジウムで伊勢湾の汚染の歴史、漂流ごみ、ウミガメの保存、河口堰の話などを取り上げ討論しました。熱心な討論の後「伊勢湾流域圏の再生」アピールを採択。当日の資料と参加者からいただいたアンケートはHPに掲載してあります。ごらんください。



<http://nagaragawa.jimdo.com/>

### 講演 伊勢湾の環境の今

石原義剛（海の博物館館長）



私に与えられた時間は30分ですので、どこまでお話できるか分かりませんが、資料に付けました「伊勢湾の環境汚染略年表」を参考にお読みくださると、伊勢湾の汚染の歴史がざっとわかっていただけるのではないかと思います。

私は今、鳥羽の「海の博物館」の館長をしておりますが、開館したのは1971年でした。この1971年という年は今考えると、伊勢湾の環境にとって歴史的な時期でした。1970年に大阪で万国博がありました。日本が1950年の朝鮮戦争から工業的な発達をし、その成果を誇るというのが大阪万博だったと思います。その翌年に博物館をつくりましたが、この年には日本の環境にとって画期的なことがありました。それは環境庁ができたことです。それまで日本は豊かな国にしなればと邁進し、それに伴い水俣病、四日市公害、イタイイタイ病など様々な公害問題がでてきましたが、環境庁設置で国が公害と取り組むことになりました。それまでの公害が環境という言葉に置き換えられていくことになりました。

#### ■ 黒い水事件

博物館を始める前に伊勢湾の漁業のことを調べるため三重県中の漁業組合を訪ねました。この写真は桑名の赤須賀で見たものです。1957年のことです。この写真の右側の木曾川は真っ黒です。これを見てびっくりし、何故だろうと調査しはじめました。博物館をつくりながら、漁村を訪ねると、どの漁師さんからも「魚が傷ついている」「魚が獲れない」「海が汚れている」という話を聞きました。この写真が象徴的でしたが、調べてみると上流に製紙工場ができ汚染水が処理されず流され、木曾三川の下流の漁師は被害をもろに受けたのです。『黒い水』事件とよばれました。



黒い木曾川河口

## ■ 四日市公害

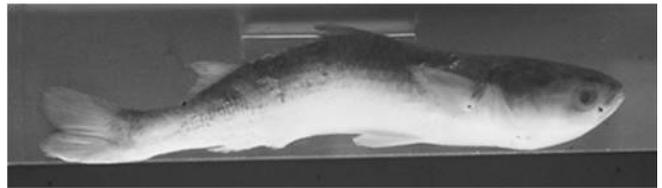
翌年の1958年には四日市のコンビナートの操業が開始され「臭い魚事件」が起こります。今では四日市の人でも忘れていますが、四日市公害に最初に気がついたのは漁師でした。多少の規制はあったもののほとんど排水が垂れ流されていました。漁師は訴えましたが、役所を持ち回られその声は聞き入れられませんでした。その頃胎児性水俣病が問題になり、公害問題が頂点に達しました。万博が行われた年の12月に、「公害国会」という特別な国会が開かれ、水質汚濁法など基本的な公害13法が成立しましたが、今から見ると信じられないような甘い数字が並んだものでした。当時の日本はまだ市民的レベルに立って、本気で規制しようというところまでには至っていませんでした。その後も



名古屋 臨海工業地帯

どんどん工業地帯ができていきました。当時の名古屋臨海工業地帯の写真をみると排水で海が白く濁っています。

当時一番使われていた石油を運ぶタンカーが伊勢湾の入口で衝突事故を起こし、原油が海に流れ出す事件がたくさん起こりました。火事を起さないようにと中和剤が大量にまかれ、そのため海では貝類をはじめ魚介類が大量死したり大変な被害を受けました。開館後の博物館にも腫瘍のできた魚などが持ち込まれました。その後、背骨の曲がったボラなどが持ち込まれたこともあります。大学の研究者によれば有機リン系の農薬などの影響ではないかと言われました。



背骨が曲がったボラ

その当時、津から松坂、伊勢市に至る海岸線を鉄鋼の工業地帯にしたいという計画を国が持っていましたが、四日市公害を経験した漁師たちが痛烈な反対運動を繰り広げてくれたおかげで、現在の海岸線が残り残りました。これは日本でも大変珍しい事例です。

## ■ 合成洗剤追放運動

1971年の環境庁発足後、工場排水の規制は強まりましたが、工業化の結果、国が豊かになり、都市生活が豊かになり、その影響による環境悪化が問題になってきました。その象徴が「合成洗剤」問題です。滋賀県では無リン洗剤条例を設置したり大きな運動になりました。三重県の漁民も合成洗剤追放運動を先頭に立ち行いました。しかしそういうことを現在どれほどの人がきちんと考え行動しているかと心配です。

## ■ 赤潮・青潮

1975年頃、私たちの生活が豊かになるにつれ伊勢湾に「赤潮」が大発生するようになります。最初は沿岸部だけでしたが、大規模に広がり伊勢湾中を覆うようになります。我々の生活から出す有機物によりプランクトンが異常発生するためです。2002年には愛知県の三河湾に大規模な「青潮」が発生しました。これは海の中に酸素がほとんど無くなる状態です。今では5月から11月頃まで伊勢湾の真中はほとんど無酸素状態、貧酸素になります。生物はほとんど棲めない状態です。秋口になると風向きにより、この貧酸素が三重県側に押し寄せることになります。その度に魚介類、特に逃げられない貝類に被害が多く発生します。これは青潮の結果ではなく、海の汚染やゴミの問題ですが、スナメリの子供が何頭も打ち上げられたことがあります。お腹からはゴミが発見されました。伊勢湾のごみ問題が報告されるようになってきました。



死んだバカガイ

## ■ 干潟喪失・藻場の喪失

これらの原因として考えられることは、かつて潮干狩りなどを楽しんだ伊勢湾周辺の干潟がほとんど埋め立てなどで失われてしまったことです。今伊勢湾のアサリ場はほとんど絶滅状態です。アサリの漁獲高は一番多かった頃の十分の一くらいに激減。アサリの赤ちゃんの幼生が住み着く場所が無いというのが現実です。もう1つ失われたものは、アマモ場です。伊勢湾に広大にあったアマモ場が壊滅的に無くなっています。藻場は魚が生まれ育っていく場所です。この中にいる限り小さな魚も大きな魚に食われることも無く安心して育つことのできる、魚にとっての保育所か幼稚園のような大切な場所なのです。これが無くなっているのですから、魚がいなくなるわけです。国も県も藻場の重要性によりやく気がついて対策をとりだしていますが、三重県の漁獲高は一時は6万トンくらいありましたが、今は1万数千トンです。伊勢湾が生物を育てていく力を明らかに失っていると考えてもいいのではないかと思います。対策はとられてはいても、まだまだ自然が回復するきざしがないということを我々は真剣に考えなくてはならないと思います。



アマモ場の中

## ■ どういう環境を目指すのか

最後の写真は、昔伊勢湾のどこにでもあった風景です。海岸線の直ぐ傍に松林があり、山から豊かな水を供給し、海と陸とを繋ぐ魚付き林がありました。これをどう回復していくかが重要だと考えています。きょうは長良川から多くの方が来られていると聞いていますが、川で生まれたアユは冬の間海で育ちます。伊勢湾で過ごすアユの調査をしています。海岸線でのアユがドンドン少なくなっていると感じています。川からだけでなく海からもこの問題は考えていくべきだと思います。

最初に私は「国が豊かになって」公害が発生し、環境が悪化したと言いました。確かに巨大なビルが建ち、道路は立派になり、家の中も近代化されました。これらは私たちの暮らしを豊かにしましたが、一方で自然が破壊され、生き物が次々に死滅しています。近年、その現状をふまえて「持続可能な開発（SUSTAINABLE DEVELOPMENT）」が語られるようになりました。私は持続可能な社会をつくっていくことは必要だと思います。決して、その手段は開発ではないと考えています。少なくとも自然の開発はもう限界にきています。自然とどうやって「共生」していくかを人類はとことん考えるべきです。最後に、10年前に漁師さんから聞き取りしてまとめた「伊勢湾は豊かな漁場だった」という本をきょう会場に少し持って来ております。読んでいただければと思います。



魚付き林

## 本紹介 「伊勢湾は豊かな漁場だった」- 伊勢湾漁師聞き書き集

(編集) 海の博物館 (発行者) 三重県漁業共同組合連合会 (発売) 風媒社

この本が出版された2005年は戦後60年目にあたり、この地域では中部国際空港が開港し、「愛・地球博」EXPO2005が開催された年でした。「発行にあたって」には、伊勢湾の環境をもう一度見直すため、戦後の伊勢湾の漁業・環境変化を古老年代を対象に聞き取りし「里海」としての機能を強く訴える機会とするため企画した、と主旨が掲げられています。川口祐二、石原義剛さんたち4名が三重県内の54の漁業地区、話者88人を対象に聞き取りまとめられた貴重な記録です。聞き書き集には、かつて伊勢湾のどこの海でも、沖にはあふれるほど魚介類がいて、岸边には湧くように稚子が育っていたようすや、それが工業化、沿岸埋め立て、水質汚濁などの環境破壊を伴う大きな変革の中で衰退してきたことが異口同音に語られています。河口堰の影響についての記録も多あります。「魚は年々少のうなってきたのですが、長良川河口堰、これは堪えたなあ(たいへんな目にあつた)。こんどできた中部空港より、鈴鹿の漁師には堪えますわ。」(鈴鹿市・白子)「回遊魚なんかでもね、入ってくると、昔はずっとおりましたわ。それが今はまったくおらんようになったんです。長良川河口堰がきいたですわ。後になって、みんないかんいかな言うていますがね。桑名地域だけではないんで、こつちもいっしょさ。お互い、木曾三川の恩恵を受けて漁業やって来たんやでね」(四日市・塩浜)

残念なことに、この本は絶版になっていますが、愛知、岐阜、三重の公立図書館には全て入っています。

なお市民学習会には2冊在庫がありますのでご希望の方はご連絡ください。

## 伊勢湾の環境汚染略年表

2016.1.31 海の博物館・石原義剛

1945	昭和20年	○第二次世界大戦終戦
1950	25年	○朝鮮戦争 ◎所得倍増計画
1951	26年	木曾川下流の漁場に汚れはじまる
1957	32年	“黒い水”事件発生（製紙汚水） □『水俣病』と呼ばれるようになる。発生はそれ以前。
1958	33年	○四日市塩浜コンビナート操業開始 ○本州製紙（江戸川）黒い水事件
1959	34年	○伊勢湾台風大被害
1960	35年	四日市の「異臭魚」東京魚市場から返送さる（発生は32年すでに）
1962	37年	漁民は“黒い水”で工場に操業停止を迫った「異臭魚」問題、補償金で解決 四日市ぜんそく患者でる ◎全国総合開発計画（一全総）
1963	38年	四日市漁民電力会社の排水口を閉ざす
1964	39年	四日市公害犠牲者はじめて出る
1966	41年	○木曾川干拓着工
1967	42年	○日本鋼管、津に立地決定
1969	44年	日本アエロジル、四日市港へ塩酸たれ流す 石原産業、四日市港へ硫酸たれ流す ◎新全国総合開発計画（二全総）
1970	45年	○公害国会開かれ公害13法成立 ○水質汚濁防止法出来る 松坂沖で魚5万尾、大量死
1971	46年	○環境庁発足（公害→環境）
1972	47年	伊勢湾口でタンカー衝突事故、重油流出 奇形魚が伊勢湾はじめ全国各地で発見されだす 合成洗剤追放運動、漁民も立ちあがる ○四日市公害訴訟判決で勝訴
1973	48年	伊勢湾口で日聖丸衝突、重油大量流出
1974	49年	長良川河口堰反対で漁民海上デモ
1975	50年	伊勢湾で大規模な赤潮が発生、以降、毎年のように発生
1977	52年	”黒い水”事件21年ぶりに補償で解決 ◎三全総
1980	55年	伊勢湾に夏場、貧酸素水塊が常に滞留するようになった 伊勢湾の漂着ゴミが問題化しだした
1988	63年	○長良川河口堰着工
1995	平成7年	○長良川河口堰運用開始
2002	14年	三河湾に大規模「青潮」発生、伊勢湾にも貧酸素水塊残留
2005	17年	○中部国際空港開港

海の博物館ホームページ [www.umihaku.com/](http://www.umihaku.com/)

石原さんのお話を聞いたすぐ後、伊勢湾の魚介類の異変が相次いで報道されました。昨年に引き続き知多半島の多くの海岸で潮干狩りが中止され、また愛知と三重の漁連がコウナゴ漁を禁漁にするというニュースです。全国有数の漁獲だった愛知・三重産のコウナゴ、アサリをこの春スーパーで見かけることはほとんどありませんでした。以前、シラス漁が全国一であるのは木曾三川の豊富な水のおかげと愛知県の水産試験場の方が答えておられる記事を読んだことがあります。一昨年の岐阜県の河口堰検討会では、長良川の天然アユの遡上数と伊勢湾のイワシの仔魚の関連を調査中という報告もありました。伊勢湾の環境と長良川、そして私が享受してきた生活とが密接に関係していることを実感しています。 \*この原稿は石原さんの了解を得て、編集部が講演のテープ起しをしてまとめました。使われた全部の写真が「よみがえれ長良川」のHPにアップしてありますのでご覧ください。 <http://nagaragawa.jimdo.com/>（まとめ 田中万寿）



## コンビナートの街にアカウミガメを呼びもどそう

四日市ウミガメ保存会 会長 森 一知

若い頃から、亀が大好きで、趣味で、亀グッズを集めている。いつのまにか、その数は6000匹を越えて、日本最大と言われている。

今から8年前に同じ、亀グッズのコレクターが熊本県の水俣市にいと聞いて訪ねてみた。行く前の、水俣のイメージは、四日市と同じ公害の街だから、コンビナートがあって、煙突があって、結構海も汚れている。そんなイメージを水俣に持っていたけど、実際の水俣は、驚くほどに自然豊かな美しい街でした。その風景を見たとき、僕が水俣を誤解していたように、日本中の人々が四日市を誤解してるとは違いないと思った。

昔は病気になるぐらい酷かった空気も今は、決して、そんなに酷くはない。「少しでもふるさとの今を伝えたい！」そこで、四日市に戻ると仲間を集めて、「四日市ウミガメ保存会」と、言う名前の海岸清掃をする団体を作った。



見守り隊

2009年1月に活動を始めると、様々なメディアに取り上げられて、清掃参加者はどんどん増えていった。主な活動は、毎月第一日曜日の朝8時（集合場所：四日市市楠木町吉崎海岸）に1時間の海岸清掃と、1時間の自然をテーマにした、勉強会を行っている。

最初の清掃は30人にも満たなかったけれど、いまでは、市民や学生だけでなく、四日市市内にあるたくさんの大企業も参加してくれて、毎月約100人、年間1500人が参加してくれる清掃活動に発展していった。

活動を始めた頃は、回りの人たちも、保存会のメンバーでさえ、まさか、四日市にウミガメが産卵に来るとは思いもしなかったけれど、2010年、2013年、2014年と、三回もの産卵を確認すると、もう、自他共にみとめる、ウミガメの街になってきた。

最初の産卵は、ウミガメ保存会の祭。2回目の産卵は砂浜のある楠町の祭。3回目の産卵は四日市全体の期待を感じる事が出来た。

かつて、伊勢湾の魚のイメージを壊滅させてしまったこの街から、今度は、ゴミの無い、汚染の無い、綺麗で豊かな伊勢湾を発信出来たら嬉しいと、強く願って止まない。

皆さんも1度、ウミガメのふるさと四日市に遊びに来てください。

問い合わせ 森 090-5111-0297



孵化

## 伊勢湾の流れと答志島の漂着ゴミ

四日市大学環境情報学部 千葉 賢

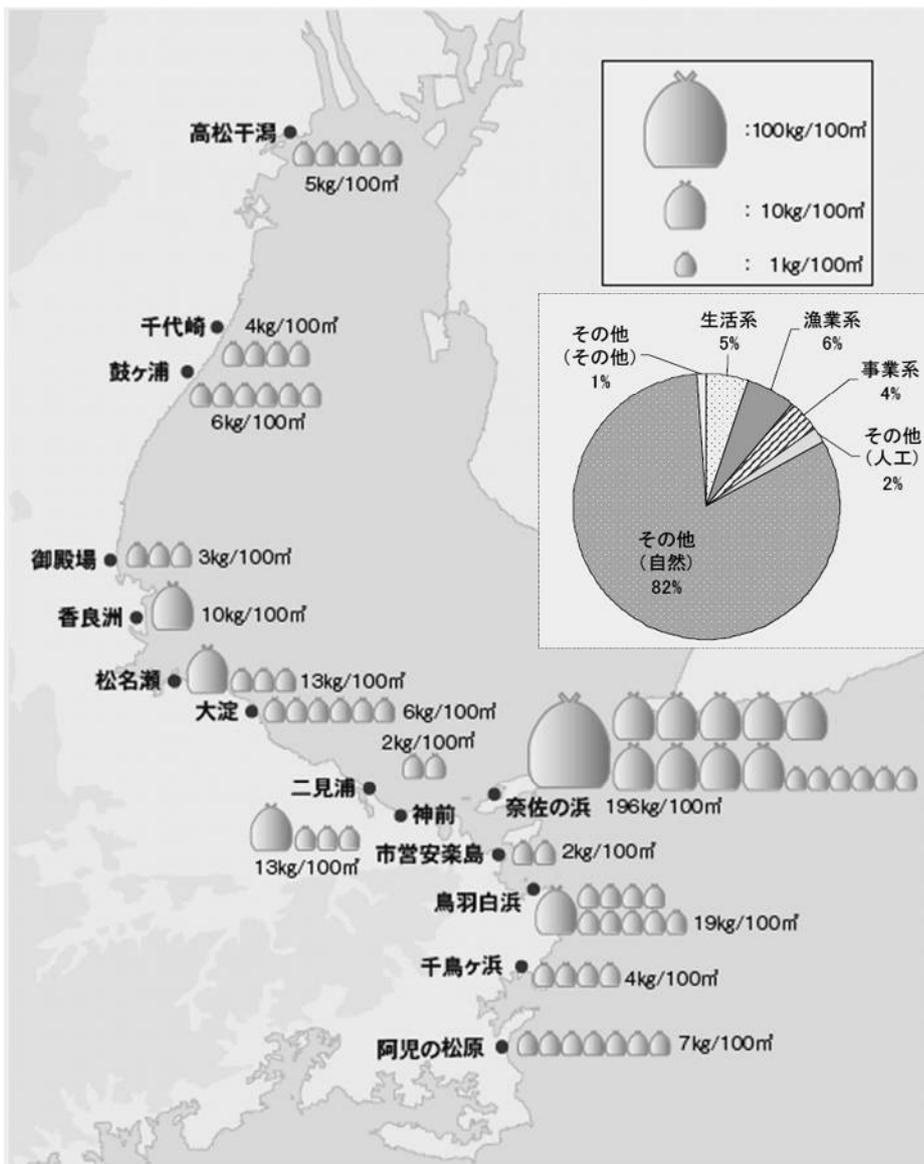
伊勢湾は河川からの流入量が極めて多い湾で、1年間の淡水流入量は200億 $m^3$ に達し、この量は東京湾の約2.3倍である。その約7割は木曾三川からで、木曾川の割合は最も大きく、伊勢湾は木曾三川の影響を強く受ける湾とすることができる。この湾で漂流漂着ゴミが大きな問題となっている。漂流漂着ゴミは漁業被害を与えるほか、海岸の景観を破壊し、海洋生物の生息環境に影響を与える。写真（次頁左上）は四日市ウミガメ保存会の森一知氏が平成26年8月10日に撮影した四日市市の吉崎海岸の様子で、大量の漂着ゴミの中に、ウミガメの産卵場所（写真中央のネットの中）が見える。ゴミは産卵後に漂着したもので、このままでは孵化したカメが海に戻る事が出来ない。写真

（次頁右上）は平成27年12月27日に撮影された答志島の奈佐の浜の様子で、かつては地元の人たちの海水浴場として親しまれた浜に、現在は多量のゴミが押し寄せるようになった。



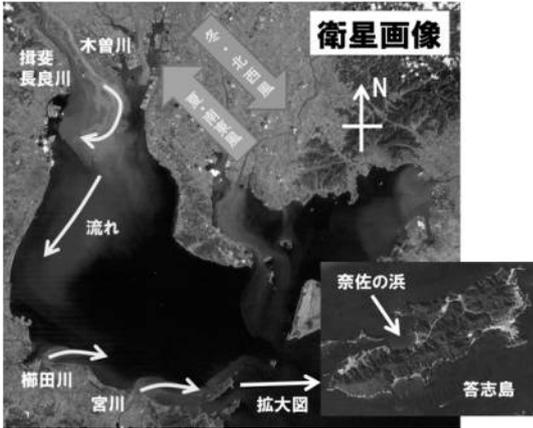


全国各地で漂流漂着ゴミが問題化し、国は調査を開始したが、三重県も平成21年度から漂着ゴミの調査を実施してきた。下図は三重県による海岸線の漂着ゴミ量の調査結果で、平成21年11月から平成22年10月までの8回の調査の平均値である。100㎡あたりのゴミの量が示されているが、鳥羽市周辺、特に答志島の奈佐の浜のゴミの量が特別に大きいことがわかる。このゴミの8割から9割は自然ゴミ（流木、灌木）である。



次頁上図は河川からの出水時の伊勢湾の衛星画像（撮影年月日は不明）で、地球の自転の影響で、河川水（写真で白く見える部分）は時計回りに回転し、木曾三川の水は四日市方面に向かい、その後、三重県沿岸沿いに南下している。櫛田川や宮川の水を加え、これらの河川水は鳥羽市沖の答志島方向に進んでいる。この流れの影響で、河川から流れ込んだゴミは答志島付近を集中して通過するが、秋から春までは北西風が卓越するため、北西方向に開いた奈佐の浜にゴミの集積が生ずると考えられている。

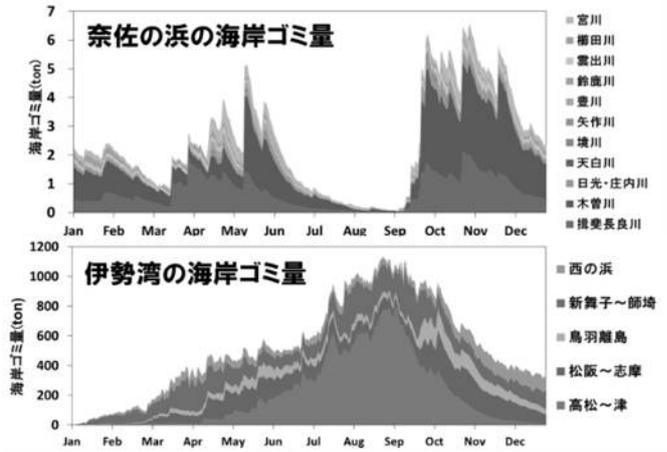
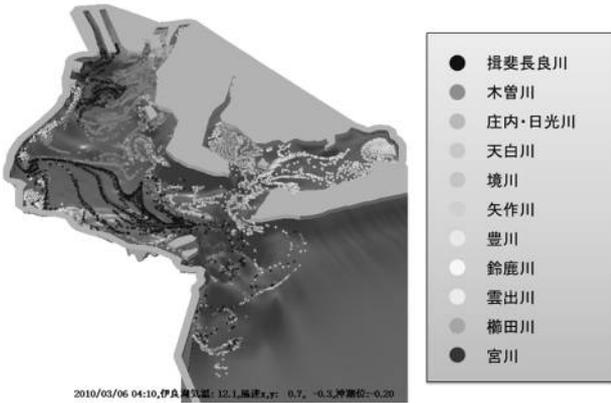
GPS 発信機を取り付けたペットボトルの漂流実験（環境省）で、伊勢湾各所から放出されたゴミが答志島へ漂着し易いことが確認され、漂着した簡易ライターの販売元情報の調査（環境省）などから、ゴミの発生源が伊勢湾流域に広がっていることなども判明したが、詳細な検討にはコンピュータシミュレーションが有効である。



著者は、伊勢湾の3次元流動モデルを用いて、漂流漂着ゴミの挙動を研究している。下図(左)はシミュレーションの様子を示すもので、一級河川から色の異なるトレーサー(追跡子)を流した場合の、一定時間後のトレーサーの位置を描いている。下図(右)は、そのようにして求めた、奈佐の浜(上段)と伊勢湾(三河湾除く)全体の海岸線(下段)のゴミの量の時間推移である。奈佐の浜のゴミとして、春と、秋から初冬にかけて多い結果で、これは観測データと一致している。また、木曾三川からのゴミの量が多いことも示された。伊勢湾全体としては、夏場の海岸ゴミ量が多く、これは夏に卓越する南東風の影響である。答志島(図では鳥羽離島)よりも、「高松～津」、「新舞子～師崎」などのゴミ量

が多いが、これは海岸線の長さが異なるためである。海岸線単位長さ当たりのゴミ量としては奈佐の浜が非常に多い。

### 漂流漂着ゴミのコンピュータシミュレーション

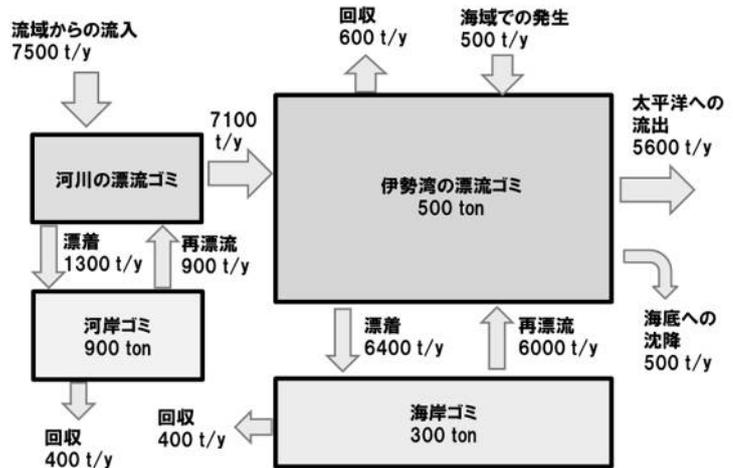


伊勢湾の漂流漂着ゴミ問題として今後取り組むべき課題は発生源対策である。人工ゴミに関しては、ポイ捨ての抑制(啓発)と不法投棄の取り締まり、漁具の管理が重要で、自然ゴミについては河川近傍の林地や崩壊地の管理、河川敷のゴミの管理が有効である。河岸や海岸の清掃活動で収集される人工ゴミの量については、年々減少傾向にあるという声も聞かれ、対策の効果も見え始めているが、自然ゴミについては、まさにこれからの課題である。里山の荒廃問題と同時に取り組むべきものであろう。

上記の対策とともに、流域の種類別ゴミの発生量、発生地、伊勢湾内での流下特性、海岸での滞留・再漂流特性などを科学的調査で明らかにすると、伊勢湾のゴミ問題の全体像(ゴミ収支)が明らかになり、問題の解決に繋がる。これらについて、今後、数多くの調査を必要とするが、現時点の情報で著者が推定した伊勢湾のゴミ収支を右図に示す。

伊勢湾流域で年間7,500tonのゴミが発生し、この中の5,600tonが太平洋に流出し、河岸と海岸には、それぞれ900tonと300tonのゴミが平均的に存在するという内容である。このようなデータの精度を高める作業を、今後、進めてゆきたい。

### 伊勢湾のゴミ収支の試算



# 貝屋の欲目から診た伊勢湾の価値と再生の可能性

アジアの浅瀬と干潟を守る会 山本 茂雄

## 【はじめに】

わたしは、豊橋市で先祖代々貝だけを扱う問屋に産まれた、そのなれの果てでございます。事業の範囲は、国内は言うに及ばず、近隣アジア諸国、ロシア、カナダからも活きたまま貝を食卓まで届け、東京晴海ふ頭から憧れのハワイ航路で、ハワイにも冷凍アサリを輸出しておりました。もちろん、赤須賀漁協で水揚げされた貝も、今では信じられないほどの量を扱っておりました。わたしの商っている頃から、漁獲される貝の質と量は年々悪くなり、今や赤須賀でのアサリの漁獲はほぼゼロになったまま回復する兆しささえありません。

他方、伊勢という地域は、御木本幸吉の真珠養殖、佐藤忠勇の垂下式カキ養殖に代表されるような水産分野のパイオニアでもありました。加えて、海女による素潜り漁や寝屋と言う古い漁労や漁村集落文化を今でも残しています。

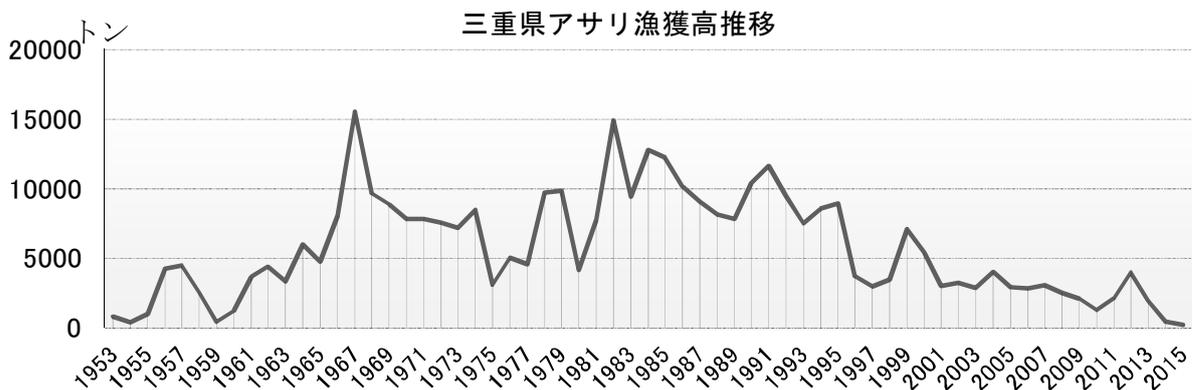
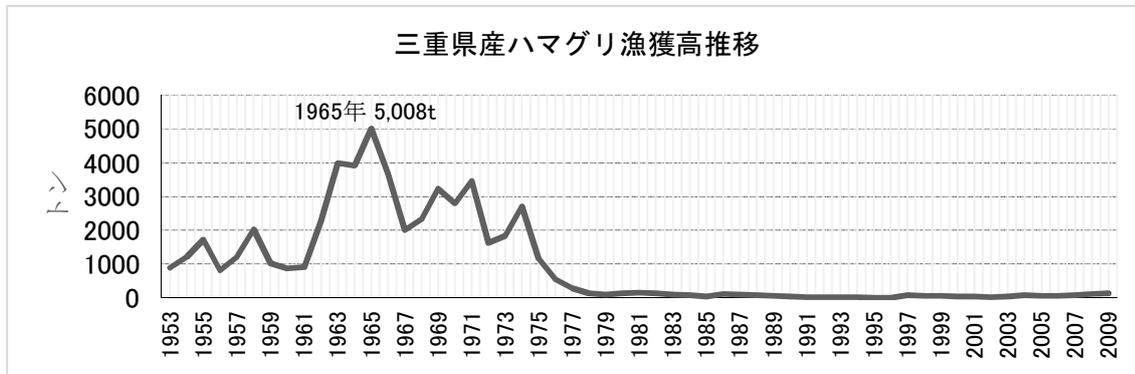


## 【伊勢の同業者のこと】

伊勢湾でも1990年代までは、1万トン以上のアサリの水揚げがあり、そこそこ量を扱う同業者が、アサリは津、松坂、ハマグリは桑名、四日市にありました。しかし、今では当時の1/10（アサリ）、1/12（ハマグリ）の漁獲しかなく、産業として成り立たない状況になりました。

昨年6月1,2日に津市で「第3回国際アサリシンポジウム」を開催しました。さまざまな資源回復のヒントを提供してもらいましたが、1960年代から大規模に改変させられた伊勢湾をダイナミックに改善させる方向には向かっておらず、漁協単位のごく小さな取組に留まっています。

桑名や名古屋の中川区には古くから営む志ぐれ屋が現存しており、貝の商いだけでなく文化の交流も盛んに行っていました。



## 【海や川は誰のもの】

海や川に開発話が持ち上がると、必ず出るのが漁業補償のことです。補償の相手は漁業者のみ、“獲れなくなり減る漁業収入の償い”に限られています。貝の間屋に産まれたわたしは、このことが子供のころから疑問でした。何百年も買い残すことなく水揚げされた貝を売りさばいていたわたしたち産地業者には交渉の窓口すらなく、生鮮を運ぶ運輸業、消費地で最前線にしてくれている小売りや料理店、食品加工メーカーなどの消費地の事業者や一般消費者には、開発者側から「お知らせ」すらも届きませんでした。

開発行為は国内産地の消滅に留まらず、一般消費者に産地情報が伝わらないことを隠れ蓑に、海外産地も含めた他産地のものを代用品に、ずーっと産地偽装がまかり通ってきました。川や海は、海外を含めた未来の消費者のためのものだと、わたしは理解しています。そして、今まで棄損してきた遺失利益の算定を消費サイドまで含めて再計算して欲しいと願っています。

そして、環境再生によって新たに産出される幸の質と量などの便益（環境用語では生態系サービス）の情報は、積極的に消費者サイドに伝えるべきだと思っています。

長良川河口堰の常時開門（プチ開門ではダメ）を例に出せば、淡水の流入増によって愛知、三重のノリ養殖だけでも卸価格で年数十億円の増収が見込めます。セントレア建設により、崩壊してしまった伊勢湾全体のアサリ浮遊幼生のネットワークも、部分的であれ修復が期待できます。河口堰の開門は、豊かすぎる尾張名古屋の伝統食文化の礎となった名古屋港を含む木曾三川河口域の底魚、浮魚、エビ・カニの資源回復を図る始めの1歩であると確信しております。

消費者は代用品ではなく、まがいもんでもない本物を求めています。長良川河口堰の開門の声を、全世界の消費者から届けてもらうように勧めていこうではありませんか。

## 【さいごに】

5月26、27日に開催された主要国首脳会議（伊勢志摩サミット）を前に、東海地方の大学や市民団体などをつくる「中部E S D拠点協議会」（愛知県春日井市）がまとめた提言は、「伊勢湾や三河湾の豊かな生態系をモデルに持続可能な経済発展などを促すものでした。

提言では、自動車や航空・ロケット産業などの集積地でありながら、伊勢湾や三河湾に残る生態系の豊かさは注目に値し、「伊勢三河湾流域E S D（持続可能な開発のための教育）モデル」と名付けたそうです。

協議会は2010年に名古屋市で開かれた生物多様性条約第十回締約国会議（C O P 1 0）を機に結成された。名古屋大や中部大、市民団体など約八十団体をつくる。

## 長良川河口堰で伊勢湾との行き来を止められた 愛おしい魚たちの「ステッカー」を広め、開門調査実現の声を高めてください！

「よみがえれ長良川」ステッカー普及にご協力ください。

悪化した長良川・伊勢湾の環境を改善するため、河口堰開門調査を一日も早く実現して欲しい、という願いを込めて、昨年9月、後藤宮子さんの描かれた回遊魚をデザインしたステッカー（タテ8.8×ヨコ13.4cm）を作成しました。日本自然保護協会や地域の情報誌などをはじめ多くの皆様のご協力で約1100組販売することができました。この7月で堰閉鎖21年目になる今年も、引き続きこの声を広げるために、改訂版を作成したいと思っています。ぜひともご協力をお願いいたします。

\*何組か預かっていただき、知り合いの方に広げてくださいませんか。

\*預かっていただけるお店などを紹介していただけませんか。

\*価格：2枚1組200円（郵送料実費）1枚100円でバラでも。

ステッカーを入れる封筒を兼ねたチラシ付きです。

連絡先：090-1753-9246 田中

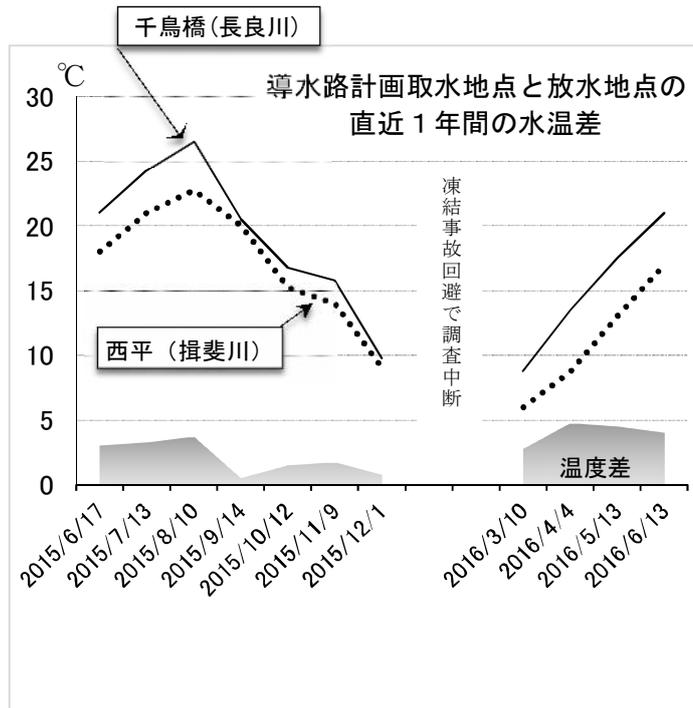
「よみがえれ長良川」のHPでも注文受付をしています。

<http://nagaragawa.jimdo.com>



## 定例水質調査を続けています

徳山ダムの水を長良川に流させない！水質調査活動を続け8年になろうとしています。冷たいダムの水が流される危惧は変わりません。



卑弥呼に想う

粕谷豊樹

2009年1月より木曾川水系導水路計画の揖斐川の取水予定地点と長良川の千鳥橋下の放流地点で毎月、同日の同時刻に採水し諸項目を計測し水質を検査し記録してきました。

スタートは長良川 西部、粕谷豊樹で行い揖斐川西平は大垣の佐藤が担当しました。その後、事情もあり長良川は武藤、揖斐川は粕谷で現在も継続して観察を続けています。(1,2月は冬場で採水に危険がともなうので中断しています)

若く現役の身で早朝より活動していただいた佐藤真紀さんご苦労さまでした。

西部節子さんは当会で最も気持ちの若い前向きな活動家でしたが先年亡くなられました。謹んでお悔やみを申し上げます。

稲作により富の蓄積が可能となった卑弥呼の時代(3世紀)倭国は乱れました。力のある勢力は大陸の王権に朝貢しお墨付きを得て下賜された三角縁神獣鏡などを自身の正当性を示すために地域に抛る豪族に与えました。それが時を経て前方後円墳のサイズを決め、造る許可を与える事となり国家は形成されました。その時代より日本人は上も下も権威に頼る習性を身につけ民族のDNAの根幹となりました。

現代の地方行政の当事者の偽らざる本音は「災害列島日本でしかも中央集権国家で今の時代は無駄な公共事業も受け入れとかと、災害時いざという時のお願いも出来んし機能せんもん」

病んだ地球 高齢化が進み人口が減る日本。国民が背負う国家赤字は世界に冠たる1,070兆円。減らす努力もなく膨らむばかり。そもそも唯一改善できるその時の政府が俺が貯めたんじゃないと思っている。誰も責任を取らないこの無責任も遺伝子のひとつである。明治維新以来 何かに怯えながらひたすら走ってきた日本。地球の上で生物多様性を維持し持続可能な環境を保ちながら穏やかに生存するにはどうしたら良いかどうすべきか私たちが測り記録した数値は幾つかの答えを示しています。



導水路計画取水地点(西平ダム湖)



逝かれるまで毎月観測を続けた西部せつ子さん(長良川で)

## 「結の舟」に乗りました!!

岡久米子



6月6日梅雨入り直後で皆が(市民学習会の5名)雨の心配をしていましたが、幸い当日は薄日の差すなか気持ちワクワクで、鶺鴒ミュージアム近くからライフジャケットを着込み舟に乗りこむことができました。毎夜鶺鴒の行われるあたりを下ったり上ったりしながら、総がらみはこんなふうに・・鶺鴒はかがり火のそばでこんな風に動くんですよ、と夜の川の様子をまず聞きました。

明るい昼間の長良川に手を入れながら、まだひんやりしている水、川底の石につく苔を覗きこんだり川の匂いを感じたりしましたが、子供の頃泳いだ時も、苔ってこんなにぼったり厚くて濃い色だったのかなあ・・この中へ下りたら滑って転ぶなあ・・いつでも飛び込んで泳ぎたい!と思った長良川の水はもっときれいで清々しかったはず・・などと遠い昔をぼんやり思いました。

船外機を使って風をきりながら川を上り、平工さんがいつも漁をされる場所の近くで舟を降り、川の中へ足を入れました。そこで見た 石を飛び越えながら流れる水、うっすらとついた苔、水の匂いなど、ああこれこれ!そして鮎が食んだ跡のスジのついた石を教えてもらったりして、今も昔も同じように長良川の鮎は泳いでいるのだと、ちょっと安心しました。

平工さんはもっと色々、川のこと、舟のこと、鮎のこと、他にもいっぱいいる魚のことを話してくださいましたが 長良川の近くで川と育った私は、どうしても、昔の私の長良川からしか思いを進めることができませんでした。

舟を作る人、櫓や櫂を作る人、漁網を編む人、などなどが高齢化されたり亡くなられたりして減ってきていることは、川漁師として生きる決心をされた平工さんにはとりわけ深刻な問題のようで、とても心配です。

ご馳走になった骨を全く感じさせない若鮎のてんぷらの美味しかったことが 忘れられません。本当に気持ちの良い一日でした。

(平工顕太郎さんの漁船を使ったツアー <http://yuinofune.com/>)



### 事務局より

■ 6月5日に郡上のアユ漁が解禁になった。6月中旬現在、冷水病が出ているところがあり釣っていても死んで流れていくアユが目立つ。テレビでは長良川のアユのロゴができたことと報道があり、岐阜県知事が嬉しそうにコメントしていたが長良川のアユの悲惨な現状も見てもらいたい。(掘 敏弘)

■ 結の舟「漁舟ツアー」に乗船しました。岐阜の市街地を流れる長良川、よく通る橋下で漁が行われていたとはつゆ知らず!!!川漁師・平工さんの漁、鮎、鶺鴒のお話しはとても新鮮で興味深く、加えて武藤さん、岡さん、田中さんから昔の長良川のお話しも聞きながらの、まさに“長良川～今昔物語”リバーウォッチングとなりました。ぜひ一度体験ください。オススメ☆☆☆☆☆ (高橋由実)

■ 木曾川水系の水資源開発基本計画(フルプラン)は、水需要の減少の中でも、その2015年の目標を過ぎても、全国の他の指定水系と同様に見直すことができませんでした。愛知県の河口堰最適運用検討委員会の利水チームでは、これに対して独自の需要実績の検討、つまりどの点で過去の予測と現在までの実績が違ってきたのか、また、これからの人口減少や節水化の中で、どのように予測すればよいのかという議論を始めています。名古屋市の「みずプラン32」や、東京都、大阪市など他の大都市での水道ビジョンも併せてご覧ください。(富樫幸一)

■ 大垣市上石津町と不破郡関ヶ原町の境の山稜に直径100mの風車16基を建てる風力発電事業計画。土砂災害や低周波音による健康被害などを心配した住民が地域で学習会を開きました。すると大垣警察署が事業者「大々的な市民運動へ展開すると御社の事業も進まないことになりかねない」「平穏な大垣市を維持したいので協力をお願いする」などと述べ市民4名の個人情報を提供しました。私も名前を挙げられた一人です。環境保全の運動を敵視し、運動潰しを指南する警察のやり方は許せません。私たちは国家賠償請求訴訟を提起します。ご理解とご支援をよろしく申し上げます。(近藤ゆり子)

「もの言う」自由を守る会 <http://monoiujiyu-ogaki.jimdo.com/>



## 校歌に歌われた長良川 ②②

### 岐阜県立加納高等学校校歌

作詞／丸山薫  
作曲／石桁真礼生

一 稲葉はそそる碧空に

世紀の理想を仰げかし

若人 いざや 矜りも高く

打ち建てゆかん

ああ 晴れやかに手をむすぶ

憧れの友 加納高校

二

精麗謳う長良川

明るく鮎のはしるごと

英智をきそい 鍛えにこそり

ふみしめゆかん 真実の道を

ああ 澁刺と意気あがる

青春の友 加納高校

平成三年に加納高校に入学しました。加納高校は普通科だけでなく、音楽科、美術科も併設されていることで地元ではよく知られています。

私は生徒会活動に積極的に参加していました。時にユニークな発想で盛り上がることもありました。文化祭で美術科が総力を挙げて取り組んだ校舎一つを丸ごとアトラクションにした企画は今でも忘れられません。驚いたことにその時指導してくださった恩師と卒業後二十年以上経過した今なお、展覧会などでお会いする機会があります。当時の生徒会活動をしているときの気持ちは、今の市民活動をしていくときの気持ちと同じです。

(中川敦詞)

### ご参加ください

- 7月16日(土) 鎌倉英也氏(NHK名古屋放送局チーフディレクター)の講演を聞く会  
13:30~16:30 愛知芸術文化センター・アールスペースE・F(12階)  
NHKBS1スペシャル「長良川河口堰〜公共事業は誰のものか」を引用し  
主催:「市民と言論実行委員会」参加費無料 申込 Fax 052-962-7017
- 7月31日(日) 第3回「清流長良川流域の生き物・生活・産業」連続講座  
—なぜ開門をめざすのか 韓国の事例と伝統漁法から学ぶ—  
13:30~16:30 ウィンク愛知 企画:長良川河口堰最適運用検討委員会  
申込 愛知県土地水資源課 tochimizu@pre.aichi.lg.jp
- 8月11日(祝) 徳山ダム導水路裁判・最高裁上告「棄却」不当決定抗議集会  
14:00~ 中生涯学習センター 名古屋市中区橘町1(地下鉄上前津⑥出口)
- 9月3日(土) 4日(日) 長良川DAY2016  
粥川バンガロー村 ゲスト 向井貴彦、平工顕太郎  
主催:長良川DAY実行委員会 申込:090-1410-4210(掘)
- 10月8日(土)~11日(火) 韓国ナクトンガン河口堰視察と交流の旅  
主催:よみがえれ長良川実行委員会 申込:090-1284-1298(武藤)
- 10月9日(日) 答志島 奈佐の浜海岸清掃 主催:22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会



長良川市民学習会は  
岐阜総がかり行動に参加し  
「投票に行こうよ。」  
と訴えています。

## 発行:長良川市民学習会

<http://dousui.org/>

代表:粕谷志郎

連絡先:武藤 仁/090-1284-1298

〒500-8211 岐阜市日野東 7-11-1

- 私たちの活動は皆様のカンパで成り立っています。  
賛同してくださる方は、ぜひカンパをお願いします。

ゆうちょ銀行口座:00840-3-158403

口座名称:長良川市民学習会